

富山県立山称名滝にてアサマシジミを採集

中西 重雄

1982年7月11日、松井・高平・岩下・中西の4名で富山県立山大日平へ採集に行った際、称名滝（中新川郡立山町、標高1,000 m）でアサマシジミ1♂を採集した。

この日は、絶好の採集日和で、早朝に称名坂を登り、大日平に到着。ミヤマモンキを数頭ものにした帰りに、称名滝前にてヒメシジミを採集した。

この時、何十頭ものヒメシジミの中にオズレ込んでアサマシジミを採集した模様だが、その時点では気付かず、後になってからアサマシジミであることが判明した。

称名滝でのアサマシジミの確認記録は、1976年以來、6年ぶりのものであり、過去数年の調査で再確認できなかったものである。

この日採集した蝶は、ミヤマモンキ、ヒメシジミ、アサマシジミ、クマゲクチョウ、シータテハ、ヤマキマダラレカゲである。

また、数頭のフジミドリシジミも目撃した。

— 参考文献 —

翔 № 24

アサマシジミ特集号 (1981)

翔 № 26

1981年アサマシジミ調査記録 松井正人 (1982)

ウラボシガシヨリアイノミドリシジミを採卵

吉村 久貴

アイノミドリシジミの自然状態における基本的食樹は、イナ科のミズナラとされているが、その他ユナラ、クマギ、カシワなどが報告

されている。^{*1)}

本会員の井村氏らによって1978年に、ウラジロガシよりアイノミドリシジミ卵が得られたことが報告されているが、^{*(2)} 筆者は本年(1982)12月5日、富山県婦負郡細入村地内において、ウラジロガシよりアイノミドリシジミ卵を採卵したので報告する。

アイノミドリシジミ卵は、ミズオラなどに産卵される時と同様、ウラジロガシの休眠芽とその基部に産みつけられていたが、単発の1卵と、2連続の計3卵が見つけられた。(1卵は寄生卵)

樹上における産卵場所は、ヒサマツミドリシジミ同様、陽当たりのよいところで、大きくよく発達した芽についていた。

アイノミドリシジミ卵のほか、ヒサマツミドリシジミ卵も多数得られた。

*1) 原色旱蝶類幼虫大図鑑 白水 隆・原 章 著
保育社 第2版 (1979)

*2) 翔 No 3 ヒサマツミドリシジミ採卵記 (1979)
井村 正行・入場 隆・野中 勝・松本和馬

*3) 翔 No 5 Zephyrus特集 吉村 久貴 (1979)

オオヒカゲの食草の記録

松井 正人

1980年、81年ヒオオヒカゲの調査を行ない、多数の産地を記録したのですが、肝心の食草であるスゲの名前が不明のままになっていました。

この度、京都大学理学部植物学教室学生、木下栄一郎氏に同定していただく機会がありましたので、翔誌上に発表します。

これまで、私が勝手に呼んでいたシツカリスゲはカサスゲでした。ヒョロスゲ、ヒョロヒョロスゲは共にゴウソ(タイソリスゲ)で、結果しているものをヒョロスゲ、していないものをヒョロヒョロスゲと呼んでいました。

下記は産地別食草名一覧表です。

オオヒカゲ産地	食草名	産地の環境	関連文献
富山県門前町西内山	カサスゲ	林内の広い湿地	翔 No 32

風至郡 門前町 山是清 " 穴水町 越渡	カサスゲ " ゴウソ	明るく乾いた広い林耕田 明るく狭い湿地	翔 № 19 翔 № 19
鹿島郡 中島町 笠師 " 島屋町 馬場原 " 鹿島町 石動山 " " 谷内	カサスゲ " 不明 カサスゲ	山際の民家の土蔵裏 山際の乾いた林耕田 スギ林下床 スギ林下床、ハンキ林下床	翔 № 19 翔 № 19 翔 № 25 翔 № 25
羽咋郡 富来町 楚和 " 志賀町 雨谷 " 志雄町 杉野屋 " " 耳床	ゴウソ カサスゲ ゴウソ カサスゲ	谷あいの林耕田おせ 山際の明るい林耕田 山際の林耕田わき 明るい林耕田	翔 № 19 翔 № 19 翔 № 25 翔 № 25
羽咋市 田柳 " 寺家一の宮	カサスゲ "	山際の狭いハンキ林下床 林耕田らしい明るい湿地	翔 № 25 翔 № 19
河北郡 津幡町 興津	ジュズスゲ?	林内の畑跡地わき	翔 № 25
金沢市 中尾 (板根口) " 二俣	カサスゲ "	林内の湿地 ハンキ林下の湿地	翔 № 32

スゲの同定の要は、根際の色と種子だそうです。スゲ類はストロンを伸ばすものが多く、手でひっぱった位では根までとれないので、今回は不完全な標本が多く、石動山産は根もなく種子も結果していません。そのため、名前はわかりませんでした。

また、興津産については種子がないため、ジュズスゲではないだろうかと判断されました。

未産になってしまいました。同定を心良く引き受けてくれた木下栄一郎氏に厚くお礼申し上げます。

金沢市釣部にてウラボシアカシジミを採集

中西 重雄

1982年6月7日、金沢市釣部～柏木間林道にて、ウラボシアカシジミ15を採集した。採集地点は、林道沿いのミズウラコナラ林である。

ウラオミアカシジミは、森本～倶利伽羅山系に広く分布していると考えられています。釣部においての採集例がないとのことですので報告しておきます。

— 参考文献 —

翔 №5
翔 №6

Zephyrus 特集号
全米周辺のウラオミアカシジミ

吉村久貴 (1979)

嶋城井淳郎 (1979)

河内村直海谷オナガシジミ採卵記

若下 泰子

休日になり天気も良くなると、何陽コンビは相変わらず何となく足を向ける。1982年12月19日、この日は白いランドクルーザーに乗って、石川郡河内村直海谷方面へ伺いました。

この方面でのオナガシジミの調査は、オダ行おわれていないようですが、適当な谷間にクルミの木も多く、十分期待できそうでした。初めは板尾へヒ。編集人 吉村氏のお気に入りミヤマカラスアゲハほど大形アゲハ類のポイントを少し越え、林道を少し左に入った場所のオニグルミより16卵採集しました。

その他、これといった木も少なく、ランドクルーザーは板尾を後に、更に直海川に沿って奥へ伺い、内尾のキャンプ場にたどり着きました。

時間はもう産を過ぎ、お復の虫の方がさわいできます。車の中で湯を沸かし、コーヒーとパンの食事をすませました。

体も温もり外に出たくなくなってしまうましたが、元気いっぱい板井のお兄さまは、寒さがまわすに雪の中をキャンプ場の奥へと登って行きます。おいてまぼりはたまたないと、寒がりヒロコも張り切って後を追いました。

雪は20～30cm位。谷に沿って上り下りの多い道を行くと、長靴の中で足の先がちぎれそうに冷たくなってしまいました。少し幼い気分で雪投げがどして、ほしゃいしていると、案外平気になってしまいました。

やがて、白竜滝にたどりつきました。氷ってさらさらと輝きとでも美しい滝を横目に川の向う岸へと渡りました。ここから、再びキャンプ場へヒ。今度は川の反対側を通って戻りました。

途中、クルミの枝を落とす。芽を見始めると、案外、多く見付けられました。一つの芽に集中して産まれている場合が多かった様に

思います。

ポケットに目標の芽をつめながら、キャンプ場に戻って来た頃には、2人のポケットはかなり大きくなっていました。

採卵デー 1982年12月19日
石川郡河内村板尾 オオドリシジミ 16卵 オニグルミ
" " 内尾 " 56卵 "

石川郡河内村にてオオドリシジミ雌を採集

吉岡 泉

『石川県産ゼフィルス17種の分布について』は、すでに翔№29において、市町村別による分布表が明らかにされているが、その中で石川郡河内村においては、オオドリシジミの分布が空白となっている。

筆者は、1981年に河内村板尾にミヤマカラスアゲハを採集に行った折、オオドリシジミ1卵を採集したので、参考までに報告しておく。

デー： 1981年7月16日 石川県石川郡河内村板尾
オオドリシジミ 1卵 (採)

尚、採集した標本は筆者が保存している。未尾ながら、発表を奨めて下さった吉村氏、確認に協力して下さいました松井氏に感謝致します。

採卵はメスマカより

松井正人・岩下泰子

10月下旬ともなると、そろそろ採卵シーズンである。イオヤミズナはまだまだたくさん葉を付け、山はまだ緑緑している中で、サクラはすでに葉を落として(枝の先端近くにだけ真赤な葉を残している)、我々をいとおしく待っているのである。

この期待に沿うべくスーパー・メスマカコンビ(SMC)は、白峰村下田原川流域へサクラを求めて出掛けたのである。

1982年10月23日は快晴でホカホカと暖かく、まさに採卵日和であった。快晴でなくとも、この頃の気候はまだ温暖であり、採卵¹²³寒風＝骨身にしみるといったイメージは全くない。

下田原部落跡を過ぎ大きくS字カーブを曲がった所より、ミズナラにブナがちらちら混ざってきたので、この辺りより採卵を開始する。

林道の切取法面は比較的小さくて登り易く、約3時間で6本のサクラよりメスアカミドリシジミ24卵を採ることができた。

これら卵の付いていたとおしいサクラは、そのいとおしさ故に回りのいとわしい雑木によって抑圧されない様に、回りのいとわしいのを伐り、すかしてやったので、来年は更にいとおしさが増していることだろう。

金沢大学薬学部薬草園のジャコウアゲハ今昔

吉村 久貴

今昔とはいっても古い昔のことは何も知らないが、金沢大学薬学部薬草園には以前ウマノスズクサがあって、ジャコウアゲハが生息していたことは確からしい。

それが、ウマノスズクサをみんな抜いてしまった時に、全く姿を見せなくなってしまったと言うことである。

ところが、1977年に百万石蝶談会の生みの親の一人 松本和馬氏が金沢市瀬領の工事現場より、ウマノスズクサとジャコウアゲハ卵を持ち帰り、薬草園にはなして以前の様にジャコウアゲハの姿を復活させようと試みた。

この頃からは筆者も知るところであるが、期待通りジャコウアゲハは薬草園内で繁殖し、薬草園のみならず、美術工芸大学の庭などにもヒラヒラと飛んだりしていた。

数少ないウマノスズクサに多数のジャコウアゲハ卵が産みつけられ、食草の足りないこともあるので、筆者も何度か卵を間引いて飼育したりしたこともある。

ジャコウアゲハが、あの甘い香りのジャコウ臭を漂わせて、非常にゆっくりフワフワ飛ぶ様は今も忘れられない。

しかし、1979年8月中頃に第3化の幼虫を確認した際、終齢幼虫が食草のツルまでズタズタに切っていたが、その頃を境に成虫の飛ぶ姿は、あっさり見られなくなってしまった。

あの時、食草が足らなくて自殺するのではという感は当たらし

く、1981年の春型以来、ジャコウアゲハが葉草園内を飛ぶ姿は今日
まで見受けられない。
全くもって残念なことだと思う。

1982年度 採集手記 Ⅹの6
初体験 Catocala 採集行

吉村 久貴

今や「御老人方の血をさわがせる」と話題のカトカラ採集を初体
験したので報告がてら綴ってみたい。

カトカラは7~10月の長期間にわたり、種によって時期がずれて
発生することは人に聞いて知ってはいたが、カトカラの種名もわか
らず、どのカトカラがいつ頃発生するのかは全くわからないので、
嵯峨井氏に採集の同行をお願いし、いろいろ御教示いただいた。
いずれも石川郡白峰村白峰~市瀬での採集である。

1982. 9. 3

1日の実験を終えて、午後8時頃出発。一時間ほどで白峰に到
着。町の中の道路沿いの水銀灯付近を見て巡る。

木造の家の壁などに静止しているカトカラを懐中電灯で目ざと
く見つけ、Zephyrus用の長いネットで採集した。

最初にキシタバを採集したが、ゴマシオが比較的多く、水銀灯
のまわりを飛び回ったり、道路上に静止しているものもいた。

次に、市瀬の登山センターの工事現場へ行ってみたが、ミニ
でもゴマシオがやたら多い。ジョナス、ミヤマキシタバ、ベニシタバ
を採集した。

帰路、白峰村の「みびりの村」で、エゾシロシタバ、白峰部落内で
オニベニシタバを採集した。

1982. 9. 18

前回、採集できなかったシロシタバ、ムラサキシタバを狙った。

しかし、市瀬でベニシタバ、ゴマシオ、ジョナスキシタバを採集
し、白峰でもシロシタバ(完品多数)、ジョナス(ヤマホロ)ヨシ(完品)
ゴマシオ、エゾベニシタバを採集したが、ついにムラサキシタバは
採集できなかった。

両日とも比較的天気が良くカトカラ採集には、よい条件とは言え

はかったが、寒さだけはひどかった。十分な防寒準備をお奨めする。
また、初めてカトカラの展翅をしたが、やたら綿のような鱗粉(?)
が飛んできていた。へんだった。

〔採集地案内・2〕 称名谷のオゴマシジミ

嵯峨井 淳郎

称名谷(富山県中新川郡立山町)は、クモマツマキチョウが比較的多産することから古くから好採集地として知られている。

もちろん、クモツキは富山県指定の天然記念物であり、採集することは法を犯すことになり、それなりの覚悟が必要であろう。



〔称名谷略図〕

しかし、称名谷周辺に最近立派な駐車場が建設され、たたく、自然破壊を云々するやからには、いささか疑問を持つのは、私だけではな
いだろう。

これに関するコメントは筆者の独断と偏見"会員の動き・私はの動き"に述べたことがあり、これ以上は追及しない。

まあ、それはさておき、称名から大日岳登山道にポツポツとオオゴマシジミを産するので近場で採りたい人には、ここをお奨めする。

しかし、大日岳登山道は少々きつく、本種が産する時期(7月中旬~下旬)は、筆者のようなデブにはかなりこたえる。

この時期、食草となっているクロバナヒキオコシは背丈以上もあり、発生しているのですぐわかる。好期にアタックすれば、よい成果が得られるのではないかと。

他には各種ゼフ(私の記録では ジョウザン、エゾ、ウラキン、フジ)、ヒメシジミ、アサマシジミ、ツマジロウラジメ。春~初夏にはスギタニルリの吸水行動も見る事ができよう。甲虫ではミヤマハンショウが多い。

何といても称名は、富山県産アサマシジミのオ1発見地で、年に1~2頭採集されているようであるが、生態は依然として謎のよ

うである。

上部の大日耳や弥陀ヶ原にはカライトソウ等が見られ、筆者や橋場氏が黒っぽい蝶がす早く飛翔するのを何回も見ているため、スワッ大変とはばかり騒いだ御人がいる(?)

この謎の蝶が筆者のところの一頭保管されているが、誰か詳しく調査して結果を教えてください。

【シリーズ案内 & 書評】

第4回 野草に関する新刊書籍の紹介

J. SAGAI

1. 趣味の山野草 82年12月号 (通巻29号、月刊さつき研究社刊)

本書は、従来より時々蝶類の食草・食樹に縁の深い植物を特集し、ムシや虫にとっては至極都合のよい書物である。

本号では、^{変化に富む}日本の野生カンアオイと題して、山崎英示、松井宏彰氏両名が、日本産のカンアオイを解説しておられる。ギフ男・カンアオイ女の必見記事である。トータル63種のカンアオイ類がカラーで紹介され、簡単な解説がついている。

75頁の連載『蝶の世界 No.8』は森島啓司氏撮影のスジグロカバマダラである。

定価 ¥1,000

2. ガーデンライフ 83年2月号 (通巻179号、誠文堂新光社刊)

本書は、観葉植物を主体とした渡来種を主にメインテーマとしてとらえ、既に14年以上も続いている花盛りを楽しむ雑読である。

本号では、『カンアオイの種間交雑』という特集記事が企画され、次の方々がカラー写真などをとりまぜて論説されている。

・湯浅浩史 (南西諸島産を中心にした交雑育種)

・金野豊秋 (カンアオイの交配と実生)

・野村道雄 (私の交配の狙いと作出品 - タマリランヨウ)

本蝶談会所属の近藤征四郎氏 (金大薬・葉草園研究室) が、既にこの著者と同様の研究を行っているということは、例会で氏自ら概要について話されたのを見えている方もいるだろう。

近藤氏が発奮され、湯浅氏らの伺いを張って論議をかもすこゝ
を期待したい。

定価 ￥780

目 次

富山県立山形名滝にてアサマシジミを採集	中西 重雄	1
ウラジロガンよりアイノミドリシジミを採卵	吉村 久貴	1
オオヒカゲの食草の記録	松井 正人	2
金沢市釣部にてウラナミアカシジミを採集	中西 重雄	3
河内村直海谷オナガシジミ採卵記	若下 泰子	4
石川郡河内村にてオオミドリシジミ雌を採集	吉岡 泉	5
採卵はメスマカより	松井 正人 若下 泰子	5
金沢大学薬学部薬草園のシコウマゲハ今昔	吉村 久貴	6
1982年度採集予記より ⑥ 初体験 <i>Catocala</i> 採集行	吉村 久貴	7
<採集地案内・2> 形名谷のオオゴマシジミ	嵯峨井 淳郎	8
【シリーズ案内 & 書評】 第4回 野草に関する新刊書籍の紹介	J. SAGAI	9

翔 №39

1983年4月1日(金)発行

発行：金沢市三日新町4-9-33 松井正人方・百万石蝶談会

校正・編集：吉村 久貴